人口推移

千歳の人口

7688人を記録した。 と市街地の人口も増加しはじめ、 には大きな変化はなかったと考えられる。 発が本格的に始まるとともに人口の増加が再び始まったが、 鈍 明治後半には3000人を超すまでに増加する。 にはほとんど影響を及ぼさなかった。 15 歳川両岸に住んでいたわずか209人に過ぎなかったが、 終戦まで くなり昭和9 1 9 2 6 戸長役場がおかれた明治13(1880) 年には北海道鉄道札幌線が開通し千歳駅が開業したが人口 (1934) 年までは5000人程度で推移した。 同年中に1万人を突破、 昭和11年に美笛地区の千歳鉱山の開 14年に海軍航空隊が開庁する しかしその後の増加は 年、 入植が始まると 千歳の人口は千 19年には1万 市街地の人口 大正

比5000人の増となり、 地関連業者が全国から集まりはじめ、 マ州兵師団1万5000人が千歳に進駐すると米兵相手の商売を目論む基 増加し、2万人を突破する。 発足したばかりの警察予備隊の駐屯により、 万505人にまで激減する。 千歳基地が開庁した32年には一気に約8000人が増加し、 4万6984人となった。 基地要員の雇用や外地からの引揚者によりすぐに増加に転じた。 戦後の急成長 の現・北千歳駐屯地が新設されたことにより、 昭和20年、 29年には3万人を突破した。さらに航空自衛隊 26年には当時の市街地人口を上回るオクラホ 終戦により海軍が解散すると千歳の人口は しかし終戦直後から進駐した米軍による大量 さらに27年には保安隊 人口は前年から約4300人 同年の人口は前年 12月末日には (S29~陸上

なお、30年の人口は国勢調査によると4万2317人と、同年9月30

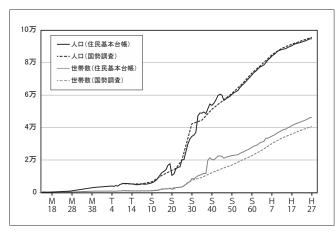
 \exists

れる。録をしていない一時的あるいは季節的な居住者が多かったことがうかがわの住民基本台帳登録者数3万4545人よりも約8000人多く、住民登

業所数、 と大きく減少しており、 となる。 年7月には市制が施行された。しかしその後はしばらく人口増加の足踏期 員が解雇された。 自衛隊東千歳駐屯地の隊員数は45年の7142人から49年には5416人 回った要因として陸上自衛隊の部隊移動と米軍の縮小が考えられる。 を通して転入増加に寄与したと思われる。 40年代は市営工業団地の造成・分譲にはじまる工業発展の時代であり、 めて転出が転入を上回った。この状態は48年まで4年間続いた。 スであり、 者数は死亡者数を、 その後は37年の後半まで5万人前後で推移する。 降、千歳への転入者数は転出者数を常に上回っていたが、44年になって初 38年からは安定した増加基調となり、 た要因は居住実態のない者を職権消除したことによる「その他」のマイナ 米軍クマ基地閉鎖と自衛隊部隊移動 市 制施行 製造品出荷額の右肩上がりの増加に示される工業の集積は40年代 市制施行1年後の昭和34年7月に一旦5万人を突破したものの、 33年から37年までの5年間で年平均2000人減にものぼる。 終戦直後から13年間で千歳の人口は4・5倍に急成長 転入者数は転出者数を上回っていた。 46年には米軍クマ基地が閉鎖され、多くの基地要 43年8月には人口6万人を突破した。 動態別統計値が確認できた27年以 にもかかわらず転出が転入を上 しかしこの間も常に出生 人口増加を妨げ 千歳市の 事 33

ため、4、45年の「その他」が大きくマイナスになっている。住民実態調査が行われ、その結果を受けて大規模な職権消除が実施されたなお、44年7月1日を基準日として住民基本台帳法施行後初めてとなる

この間も自然動態(誕生-死亡)は毎年1000人以上の増加が続いて



千歳の人口・世帯数の推移 図1-1

0)

転入者数は転出者数

世帯数が住民基本台帳と国勢調査で大きく異なるのは、後者では自 衛隊営内居住者を中隊等ごとに1世帯としていることなどによる。

期にわたって

時的

な例

成長の鈍化

戦

後、

長

外期を除き基本的に千歳

を上 8 を上回る年が多くなり 10 る。 年を潮目に転出が 一回っていたが、 また全国的な傾 平成 転入

年10月のことである。 末には5万6748人にまで減少し、 は6万人を割った。 いたが社会動態 (転出 6月に一時的に6万人を回復したものの、 転入+その他) 再び6万人に達するのは による大きな減少から 翌 454年後の49 年4 46年3月 月に

による50年の目標人口7万9000人に程とおい状況だった。 安定成長期 50年3月末の人口は6万455人と、 再び人口が6万人を突破した昭和49年には、 第2期総合開発計画(S45年策定 社会動態は

後は社会動態も安定してプラスとなり、 れでも自然動態によるプラスが大きく、 53年には自衛隊の移駐などでマイナスに戻る。 毎年 人口は毎年着実に増加する。 i 0 00人前後の人口増が続 58年には7万人、

ラスに転じたが、

51 年、

成 4 増加が続き、 になった。 8万人を突破した。 年までほぼ同ペースで 人口は8万7208人 1 9 9 2 同年3月末 年には 平

国勢調査に基づく千歳の世帯数・人口の推移 表 1 - 1

2X I - I	四分则上	まに玉 つく	一成の世	'市'致(' 八)	ロマカチ				
和暦	和無	111. 世. 粉.	人口						
//□/音·	西曆	世帯数	総数	男	女				
大正9	1920	1,065	5,366	2,825	2,541				
14	1925	991	5,252	2,881	2,371				
昭和5	1930	947	5,275	2,753	2,522				
10	1935	1,057	6,557	3,713	2,844				
15	1940	1,856	10,512	5,960	4,552				
22	1947	2,956	14,816	7,722	7,094				
25	1950	3,346	20,030	11,974	8,056				
30	1955	7,525	42,317	25,594	16,723				
35	1960	9,267	44,522	25,873	18,649				
40	1965	12,156	51,243	28,623	22,620				
45	1970	14,667	56,118	30,330	25,788				
50	1975	16,849	61,031	32,692	28,339				
55	1980	19,907	66,788	35,544	31,244				
60	1985	22,681	73,610	38,749	34,861				
平成 2	1990	26,010	78,946	41,586	37,360				
7	1995	30,071	84,866	44,237	40,629				
12	2000	33,532	88,897	46,155	42,742				
17	2005	35,983	91,437	46,985	44,452				
22	2010	38,541	93,604	47,836	45,768				
27	2015	40,614	95,664	48,563	47,101				

した。 タルとしては人口 大きく貢献していた自然動態の増加分は昭和45年に1150人となったの である少子高齢化の影響が千歳でも顕在化 クに徐々に減少し、 10年から26年までの平均で年444人の増となっている。 1増の傾 向 平成10年には693人となった。 が毎年維持されており、 それまで千歳の人口増 17年には9万人を突破 それでもト 加に

をピ

米軍人、 軍属およびその家族は人口に含まない。

表 1 - 2 住民基本台帳に基づく千歳の世帯数・人口・人口動態の推移

28 1953 6,192 29,816 15,118 14,698 2,412 694 135 5,111 3,258 29,904 29 1954 6,520 32,942 17,460 15,482 2,525 887 163 3,949 2,148 32,316 30 1955 8,501 34,545 17,478 17,067 2,823 680 805 125 2,143 4,869 2,475 -251 34,841 31 1956 8,395 35,371 17,863 17,508 1,828 690 869 179 1,138 3,711 2,484 -89 36,669 32 1957 9,308 37,017 18,431 18,586 10,315 793 962 169 9,524 12,565 2,840 -203 46,984 33 1958 10,245 47,188 27,748 19,440 1,525 730 881 151 795 4,472 3,331 -346 48,509 34	表 1 - 2	2 1土氏	基本 百版	に基づく	、十成の	世帝釵・	<u> ДП.)</u>	しの動態	の推移 ニュー						
日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本					A (1)					人	口動態	2)			
情報	和暦	西曆	世帯数(1)		八口		4-7 241 235		自然動態			社会	動態		12月31日
Heat 1881				総数	男	女	総唱減	増減	出生	死亡	増減	転入	転出	その他	
Heat 1881	明治13	1880	47	209											
Texas		1881	48	208	121	87									
27 1894 192 789 447 342	16	1883	51	173	91										
The color of the	20	1887	81	371											
30 1906 799 3.084 1.603 1.481					447	342									
Text 1915															
S			-												
6					,										
7															
8 1919 913 4.884 2.563 5.654															
9															
10															
The color of the															
WARD 1926 S.045 S.045 S.090 S.047 S.590 S.045 S.090 S.047 S.047															
2 1927 890 4.717 2.590 2.127			334		2,130	2,043									
3 1928			800		2 500	2 127									
4 1929 918 4.865 2.671 2.194			090		2,390	2,121									
5 1930 965 5,275 2,752 2,523			019		2 671	2 104									
6 1931 9.5,056 2.602 2.474 9.7 1932 928 5,076 2.602 2.474 9.7 1932 928 5,076 2.602 2.474 9.7 1.00															
Toleran			903		2,732	2,323									
8 1933 926 5.273 2.688 2.585			000		9, 609	9.474									
9															
11															
12 1937 1,190 7,420 4,242 3,178	_														
13 1938 1,259 8,794 5,064 3,730															
14 1939															
15	_		1,259		5,064	3,730									
16 1941 2.183 12,986			0.110		5 000	4 000									
17					7,260	4,980									
18															
19															
20 1945 1,965 10,505 5,394 5,111															
21 1946 2,167 11,479 5,887 5,592 <td></td>															
22 1947 2,956 14,635 7,628 7,007 542 124 542 144 <t< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>- ,</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></t<>						- ,									
23 1948 3,041 15,427 8,054 7,373 542 124 6 124															
24 1949 3,123 15,757 8,107 7,650 832 194 25 1950 3,345 20,030 11,975 8,055 632 177 632 177 632 177 632 177 632 177 632 177 632 177 632 177 632 177 642 186 4,061 20,212 10,432 9,780 733 205 642 193 4,061 2,921 25,735 28 1953 6,192 29,816 15,118 14,698 2,412 694 135 5,111 3,258 29,904 29 1954 6,520 32,942 17,460 15,482 2,525 887 163 3,949 2,148 32,316 30 1955 8,501 34,545 17,478				· ·											
25 1950 3,345 20,030 11,975 8,055 632 177 632 177 632 177 633 205 632 177 633 205 633 177 633 205 633 177 633 205 633 177 633 205 633 177 633 1953 6,192 25,286 12,900 12,386 4,169 829 194 6,526 2,992 25,735 25,735 28 1953 6,192 29,816 15,118 14,698 2,412 694 135 5,111 3,258 29,904 29 1954 6,520 32,942 17,460 15,482 2,525 887 163 3,949 2,148 32,316 30 1955 8,501 34,545 17,478 17,067 2,823 680 805 125 2,143 4,869 2,475 -251 34,841 31 1956 8,395 35,371 17,863			_												
26 1951 4,061 20,212 10,432 9,780 733 205 27 1952 4,967 25,286 12,900 12,386 4,169 829 194 6,526 2,992 25,735 28 1953 6,192 29,816 15,118 14,698 2,412 694 135 5,111 3,258 29,904 29 1954 6,520 32,942 17,460 15,482 2,525 887 163 3,949 2,148 32,316 30 1955 8,501 34,545 17,478 17,067 2,823 680 805 125 2,143 4,869 2,475 -251 34,841 31 1956 8,395 35,371 17,863 17,508 1,828 690 869 179 1,138 3,711 2,484 -89 36,669 32 1957 9,308 37,017 18,431 18,586 10,315 793 962 169 9,524 12,565															
27 1952 4,967 25,286 12,900 12,386 4,169 829 194 6,526 2,992 25,735 28 1953 6,192 29,816 15,118 14,698 2,412 694 135 5,111 3,258 29,904 29 1954 6,520 32,942 17,460 15,482 2,525 887 163 3,949 2,148 32,316 30 1955 8,501 34,545 17,478 17,067 2,823 680 805 125 2,143 4,869 2,475 -251 34,841 31 1956 8,395 35,371 17,863 17,508 1,828 690 869 179 1,138 3,711 2,484 -89 36,669 32 1957 9,308 37,017 18,431 18,586 10,315 793 962 169 9,524 12,565 2,840 -203 46,984 33 1958 10,615 48,963															
28 1953 6,192 29,816 15,118 14,698 2,412 694 135 5,111 3,258 29,904 29 1954 6,520 32,942 17,460 15,482 2,525 887 163 3,949 2,148 32,316 30 1955 8,501 34,545 17,478 17,067 2,823 680 805 125 2,143 4,869 2,475 -251 34,841 31 1956 8,395 35,371 17,863 17,508 1,828 690 869 179 1,138 3,711 2,484 -89 36,669 32 1957 9,308 37,017 18,431 18,586 10,315 793 962 169 9,524 12,565 2,840 -203 46,984 33 1958 10,245 47,188 27,748 19,440 1,525 730 881 151 795 4,472 3,331 -346 48,509 34															
29 1954 6,520 32,942 17,460 15,482 2,525 887 163 3,949 2,148 32,316 30 1955 8,501 34,545 17,478 17,067 2,823 680 805 125 2,143 4,869 2,475 -251 34,841 31 1956 8,395 35,371 17,863 17,508 1,828 690 869 179 1,138 3,711 2,484 -89 36,669 32 1957 9,308 37,017 18,431 18,586 10,315 793 962 169 9,524 12,565 2,840 -203 46,984 33 1958 10,245 47,188 27,748 19,440 1,525 730 881 151 795 4,472 3,331 -346 48,509 34 1959 10,615 48,963 28,924 20,039 80 810 977 167 -730 8,115 5,252 -3,593 48,589 35 1960 11,155 48,880 28,335 20,545 <td></td> <td>25,735</td>															25,735
30 1955 8,501 34,545 17,478 17,067 2,823 680 805 125 2,143 4,869 2,475 -251 34,841 31 1956 8,395 35,371 17,863 17,508 1,828 690 869 179 1,138 3,711 2,484 -89 36,669 32 1957 9,308 37,017 18,431 18,586 10,315 793 962 169 9,524 12,565 2,840 -203 46,984 33 1958 10,245 47,188 27,748 19,440 1,525 730 881 151 795 4,472 3,331 -346 48,509 34 1959 10,615 48,963 28,924 20,039 80 810 977 167 -730 8,115 5,252 -3,593 48,589 35 1960 11,155 48,880 28,335 20,545 381 851 1,011 160 -470															29,904
31 1956 8,395 35,371 17,863 17,508 1,828 690 869 179 1,138 3,711 2,484 -89 36,669 32 1957 9,308 37,017 18,431 18,586 10,315 793 962 169 9,524 12,565 2,840 -203 46,984 33 1958 10,245 47,188 27,748 19,440 1,525 730 881 151 795 4,472 3,331 -346 48,509 34 1959 10,615 48,963 28,924 20,039 80 810 977 167 -730 8,115 5,252 -3,593 48,589 35 1960 11,155 48,880 28,335 20,545 381 851 1,011 160 -470 5,484 4,260 -1,694 48,970 36 1961 11,674 48,554 27,494 21,060 2,454 835 1,014 179 1,619															32,316
32 1957 9,308 37,017 18,431 18,586 10,315 793 962 169 9,524 12,565 2,840 -203 46,984 33 1958 10,245 47,188 27,748 19,440 1,525 730 881 151 795 4,472 3,331 -346 48,509 34 1959 10,615 48,963 28,924 20,039 80 810 977 167 -730 8,115 5,252 -3,593 48,589 35 1960 11,155 48,880 28,335 20,545 381 851 1,011 160 -470 5,484 4,260 -1,694 48,970 36 1961 11,767 49,608 28,340 21,268 -960 846 1,038 192 -1,806 6,640 4,575 -3,871 48,010 37 1962 11,674 48,554 27,494 21,060 2,454 835 1,014 179 1,619 7,620 5,637 -364 50,464 38 1963 19,893 51,661 29,526 22,135 3,114 969 1,137 168 2,145 7,464 4,782 -537															34,841
33 1958 10,245 47,188 27,748 19,440 1,525 730 881 151 795 4,472 3,331 -346 48,509 34 1959 10,615 48,963 28,924 20,039 80 810 977 167 -730 8,115 5,252 -3,593 48,589 35 1960 11,155 48,880 28,335 20,545 381 851 1,011 160 -470 5,484 4,260 -1,694 48,970 36 1961 11,767 49,608 28,340 21,268 -960 846 1,038 192 -1,806 6,640 4,575 -3,871 48,010 37 1962 11,674 48,554 27,494 21,060 2,454 835 1,014 179 1,619 7,620 5,637 -364 50,464 38 1963 19,893 51,661 29,526 22,135 3,114 969 1,137 168 2,145 7,464 4,782 -537 53,578 39 1964 21,3										179	1,138	3,711	2,484		36,669
34 1959 10,615 48,963 28,924 20,039 80 810 977 167 -730 8,115 5,252 -3,593 48,589 35 1960 11,155 48,880 28,335 20,545 381 851 1,011 160 -470 5,484 4,260 -1,694 48,970 36 1961 11,767 49,608 28,340 21,268 -960 846 1,038 192 -1,806 6,640 4,575 -3,871 48,010 37 1962 11,674 48,554 27,494 21,060 2,454 835 1,014 179 1,619 7,620 5,637 -364 50,464 38 1963 19,893 51,661 29,526 22,135 3,114 969 1,137 168 2,145 7,464 4,782 -537 53,578 39 1964 21,376 54,484 31,241 23,243 -664 996 1,148 152 -1,660 7,020 5,229 -3,451 52,914						18,586				169	9,524	12,565			46,984
35 1960 11,155 48,880 28,335 20,545 381 851 1,011 160 -470 5,484 4,260 -1,694 48,970 36 1961 11,767 49,608 28,340 21,268 -960 846 1,038 192 -1,806 6,640 4,575 -3,871 48,010 37 1962 11,674 48,554 27,494 21,060 2,454 835 1,014 179 1,619 7,620 5,637 -364 50,464 38 1963 19,893 51,661 29,526 22,135 3,114 969 1,137 168 2,145 7,464 4,782 -537 53,578 39 1964 21,376 54,484 31,241 23,243 -664 996 1,148 152 -1,660 7,020 5,229 -3,451 52,914	33	1958	10,245		27,748	19,440	1,525	730	881	151	795	4,472	3,331	-346	48,509
36 1961 11,767 49,608 28,340 21,268 -960 846 1,038 192 -1,806 6,640 4,575 -3,871 48,010 37 1962 11,674 48,554 27,494 21,060 2,454 835 1,014 179 1,619 7,620 5,637 -364 50,464 38 1963 19,893 51,661 29,526 22,135 3,114 969 1,137 168 2,145 7,464 4,782 -537 53,578 39 1964 21,376 54,484 31,241 23,243 -664 996 1,148 152 -1,660 7,020 5,229 -3,451 52,914	34	1959	10,615	48,963	28,924	20,039	80	810	977	167	-730	8,115	5,252	-3,593	48,589
37 1962 11,674 48,554 27,494 21,060 2,454 835 1,014 179 1,619 7,620 5,637 -364 50,464 38 1963 19,893 51,661 29,526 22,135 3,114 969 1,137 168 2,145 7,464 4,782 -537 53,578 39 1964 21,376 54,484 31,241 23,243 -664 996 1,148 152 -1,660 7,020 5,229 -3,451 52,914	35	1960	11,155	48,880	28,335	20,545	381	851	1,011	160	-470	5,484	4,260	-1,694	48,970
38 1963 19,893 51,661 29,526 22,135 3,114 969 1,137 168 2,145 7,464 4,782 -537 53,578 39 1964 21,376 54,484 31,241 23,243 -664 996 1,148 152 -1,660 7,020 5,229 -3,451 52,914	36	1961	11,767	49,608	28,340	21,268	-960	846	1,038	192	-1,806	6,640	4,575	-3,871	48,010
39 1964 21,376 54,484 31,241 23,243 -664 996 1,148 152 -1,660 7,020 5,229 -3,451 52,914	37	1962	11,674	48,554	27,494	21,060	2,454	835	1,014	179	1,619	7,620	5,637	-364	50,464
	38	1963	19,893	51,661	29,526	22,135	3,114	969	1,137	168	2,145	7,464	4,782	-537	53,578
40 1005 00 000 50 000 00 000 00 500 1 500 1 500 1 500 1 500 1	39	1964	21,376	54,484	31,241	23,243	-664	996	1,148	152	-1,660	7,020	5,229	-3,451	52,914
40 1965 20,293 53,608 30,028 23,580 1,751 1,070 1,273 203 681 7,394 5,919 -794 54,665	40	1965	20,293	53,608	30,028	23,580	1,751	1,070	1,273	203	681	7,394	5,919	-794	54,665

表 1-2 住民基本台帳に基づく千歳の世帯数・人口・人口動態の推移 (続き)

表 - 2 住民基本首帳に基 プリー 展の世帯数・			人口動態の推移(続き)											
fues area	nn -m- wz (1)	人口 (1)					#1 #M							
和曆	西暦	世帯数(1)				総増減		自然動態		132.5	社会		- t1	12月31日
			総数	男	女		増減	出生	死亡	増減	転入	転出	その他	人口
昭和41	1966	20,099	54,942	30,416	24,526	1,509	865	1,060	195	644	6,419	5,248	-527	56,174
42	1967	21,175	57,094	31,614	25,480	2,549	1,162	1,359	197	1,387	6,506	5,092	-27	58,723
43	1968	22,460	59,658	33,103	26,555	1,394	1,085	1,287	202	309	6,674	6,165	-200	60,117
44	1969	22,477	60,592	33,180	27,412	477	1,022	1,219	197	-545	7,258	6,430	-1,373	60,594
45	1970	22,326	60,031	32,626	27,405	-3,616	1,149	1,338	189	-4,765	7,236	8,325	-3,676	56,978
46	1971	21,106	56,748	30,673	26,075	1,038	1,136	1,364	228	-98	7,502	7,527	-73	58,016
47	1972	21,660	57,685	31,251	26,434	643	1,130	1,348	218	-487	6,826	7,247	-66	58,659
48	1973	22,002	58,514	31,588	26,926	667	1,095	1,308	213	-428	6,695	6,987	-136	59,326
49	1974	22,373	59,206	31,974	27,232	1,126	1,099	1,307	208	27	7,125	6,663	-435	60,452
50	1975	22,724	60,455	32,664	27,791	1,188	1,009	1,226	217	179	6,590	6,067	-344	61,640
51	1976	22,877	61,472	32,983	28,489	763	1,028	1,219	191	-265	6,004	6,192	-77	62,403
52	1977	23,075	62,171	33,242	28,929	1,156	976	1,191	215	180	6,483	6,269	-34	63,559
53	1978	23,184	62,842	33,519	29,323	797	946	1,140	194	-149	6,455	6,584	-20	64,356
54	1979	24,044	64,610	34,403	30,207	1,815	881	1,123	242	934	6,993	6,064	5	66,171
55	1980	24,678	66,021	35,153	30,868	1,092	870	1,142	272	222	6,519	6,307	10	67,263
56	1981	25,096	67,040	35,572	31,468	1,619	869	1,117	248	750	6,874	6,140	16	68,882
57	1982	25,882	68,523	36,302	32,221	1,021	885	1,127	242	136	6,354	6,237	19	69,903
58	1983	26,341	69,680	36,782	32,898	1,371	904	1,148	244	467	6,580	6,144	31	71,274
59	1984	26,988	71,009	37,458	33,551	1,447	831	1,095	264	616	6,550	5,904	-30	72,721
60	1985	27,858	72,514	38,268	34,246	1,322	861	1,122	261	461	6,611	6,056	-94	74,043
61	1986	28,472	73,931	39,022	34,909	1,047	786	1,065	279	261	6,359	6,025	-73	75,090
62							807							
	1987	28,909	74,810	39,418	35,392	1,187		1,077	270	380	6,763	6,323	-60	76,277
63	1988	29,558	76,128	40,043	36,085	1,457	745	1,049	304	712	6,828	6,116	0	77,734
平成元	1989	30,616	77,306	40,766	36,540	776	757	1,045	288	19	6,545	6,519	-7	78,510
2	1990	31,078	77,905	40,915	36,990	651	681	961	280	-30	6,327	6,350	-7	79,161
3	1991	31,440	78,599	41,090	37,509	1,227	760	1,052	292	467	6,771	6,328	24	80,388
4	1992	33,413	80,022	41,808	38,214	1,708	727	1,055	328	981	7,088	6,118	11	82,096
5	1993	33,403	81,632	42,588	39,044	1,209	743	1,098	355	466	6,755	6,304	15	83,305
6	1994	34,000	82,680	43,122	39,558	1,059	706	1,082	376	353	6,309	5,967	11	84,364
7	1995	34,694	84,048	43,741	40,307	887	726	1,104	378	161	6,129	5,914	-54	85,251
8	1996	35,232	84,974	44,145	40,829	1,195	647	1,056	409	548	6,722	6,148	-26	86,446
9	1997	36,040	86,017	44,548	41,469	1,504	708	1,111	403	796	7,029	6,227	-6	
10	1998	36,939	87,208	45,097	42,111	578	693	1,074	381	-115	6,451	6,573	7	88,528
11	1999	37,508	87,742	45,353	42,389	117	551	1,027	476	-434	6,021	6,428	-27	88,645
12	2000	38,265	88,126	45,623	42,503	647	523	994	471	124	6,768	6,647	3	89,292
13	2001	38,849	88,472	45,745	42,727	503	661	1,067	406	-158	6,448	6,579	-27	89,795
14	2002	39,073	88,679	45,576	43,103	383	599	1,050	451	-216	6,349	6,534	-31	90,178
15	2003	39,900	89,477	46,019	43,458	641	560	1,028	468	81	6,539	6,455	-3	90,819
16	2004	40,444	89,976	46,155	43,821	532	501	985	484	31	6,481	6,453	3	91,351
17	2005	41,116	90,507	46,476	44,031	471	447	974	527	24	6,292	6,287	19	91,822
18	2006	41,819	91,242	46,693	44,549	639	479	1,007	528	160	6,197	6,073	36	92,461
19	2007	42,348	91,808	47,019	44,789	446	335	936	601	111	6,183	6,109	37	92,907
20	2008	42,870	92,017	47,059	44,958	216	407	983	576	-191	5,683	5,917	43	93,123
21	2009	43,320	92,393	47,103	45,290	366	260	915	655	106	5,653	5,582	35	93,489
22	2010	43,777	92,785	47,252	45,533	308	328	959	631	-20	5,310	5,355	25	93,797
23	2011	44,210	93,212	47,342	45,870	571	276	932	656	295	5,676	5,434	53	94,368
24	2012	44,701	93,584	47,464	46,120	548	251	926	675	297	5,329	5,489	457	94,916
25	2013	45,368	94,172	47,714	46,458	543	276	943	667	267	5,756	5,529	40	95,459
26	2013	46,002	94,700	48,075	46,625	43	251	916	665	-208	5,593	5,823	22	95,502
27	2014	46,338	94,700	48,027	46,793	393	241	903	662	152	5,942	5,844	54	
				40,027 在の数4		აჟა	441	503	002	104	5,344	5,044	54	20,090

⁽¹⁾ 昭和31年以降は3月31日現在の数値 (2) 人口動態は暦年を単位としているため、年末の人口を示した ※ 空欄はデータ欠損

地域別人口

7361人とピーク時の3割にまで減少する。 の2万4036人をピークとして、 加約8400人のうち7300人が中心市街地の増加である。 歳の人口の半分近くを占めていた。 地域属性 年には2万人を、 ①中心市 和 25 地域割はかつての字を単位に行っているため、 (1950) 50) (市街地、 街地 千代田町、 戦前からの市街地である本町、 61年には1万人を割り、 農村部など)と一致しない範囲が含まれることもある。 錦町、 年以降の人口の推移を地域別に見てみる。 栄町、 その後は右肩下がりに減少していく。 25年から27年までの千歳全体の人口増 春日町、 緑町 平 成 17 その後は多少持ち直し、 の 10 町。 東雲町、 各地域にはそれぞれ (2005) 年には 昭和25年には千 朝日町 しかし39年 なお、 清水 26 以 0

年には5000人、 和25年の1041人から徐々に増加し、 中心市街地と隣接する地区で、 る。 旧・末広町 63年からは平成26年現在まで9000人台で推移している。 現在の末広、 42年には8000人を突破したが、 花園、 戦後比較的早くから居住者が増加した。 高台、 土地区画整理事業が行われると38 稲穂の範囲。 この頃から増加は 鉄道をはさんで 昭

年現在で8292人となっている。

な地 の3分の1を超えている。 5 0 0 0 大半が市街地と化し、 心市街地寄りから居住者が急増する。 域である。 頂 北信濃 <u>ڔ</u> 4年には1万人を突破する。 昭和25年は人口421人に過ぎなかったが、 中心市街地の北西、 平成26年現在の人口は3万5664人で、 現在でも微増が続いている。 現・JR千歳線の両側に広がる広大 32年には2000 その後も開発は続き、 30年頃 この地域 39年には 市全体 いから

大な団地・泉沢向陽台が造成された。それまで100人に満たなかった人④旧・泉沢 市街地南西部に広がる山林地の泉沢の一角に昭和54年、広

区に居住していることになる。の後は現在まで1万人前後で推移しており、千歳の1割強の人口がこの地の後は現在まで1万人前後で推移しており、千歳の1割強の人口がこの地口は急激に増え、63年には5000人、平成12年には1万人に達した。そ

平成 年現在まで2万6000人台で推移している。 大和 街地となった。この地域の人口は昭和25年の2037人から緩やかに増加 青葉から寿にかけての一帯、 域でも宅地が造成されはじめた。 ⑤現在までに市街地化したその他の 元年には2万人に達したが、 39年に5000人に達した後、 平 和、 真々地、 恵庭寄りではみどり台などの広範囲が現在までに市 左岸の清流、 増加は徐々に緩やかとなり、 中心市街地より千歳川下流域では右岸の 大きく伸び始める。47年には1万人、 池域 幸福、 昭和40年頃から右記以外 上流側では新星、 21年から26 桂木、

⑥農村部 現在も農村である地域の人口は昭和25年には4450人である。

湖畔 成26年現在、 52年に千歳鉱山で職住分離が実施されると、まとまった居住者が居るのは 体で人口減が始まる。 34年には2500人近くにまで増加する。 年には2034人であったが、千歳鉱山が操業する美笛の人口増により ⑦烏柵舞・支笏湖地区 現 · 支笏湖温泉) 地区全体の人口は171人となっている。 藤の沢、 のみとなったが、ここでも減少は続いている。 支笏湖周辺を含む旧 水明郷、 美笛では極端な人口減少が しかし30年代後半から ・烏柵舞村の範囲 は地域全 進み、 和34 平

駐 屯地 8 自 衛隊駐屯地・ 祝 海)、 航空自衛隊千歳基地 基地 陸上自衛隊北千歲駐屯地 至 和 0) 営内居住者。 北信濃 昭 東千歳 和 29 年

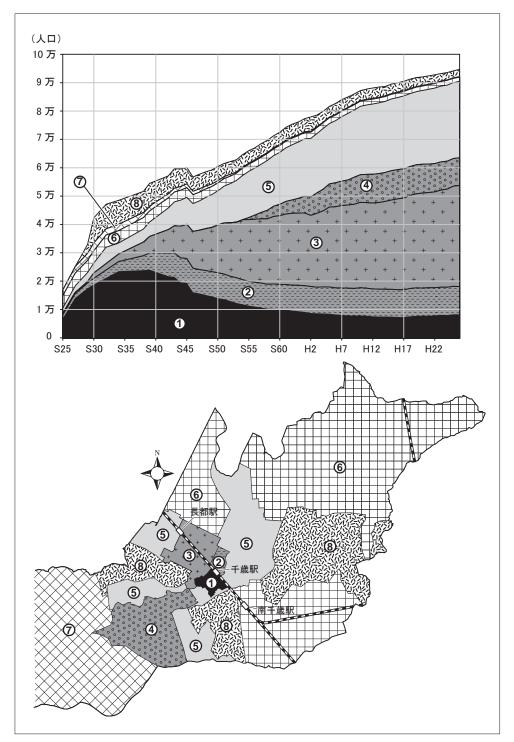


図1-2 地域別人口推移

『要覧ちとせ』各年度版より作成。ただし、昭和28、31、33、36、37、41年のデータは確認できなかった。また『要覧ちとせ』掲載の35、40年のデータは国勢調査に基づいたものであるため使用しなかった。これら欠落年の前後の年の値を直線で結んだ。営内居住自衛官数については34年以前は区分して掲載されていないため、推定した。

性比

いためグラフには非表示)。 で推移してきた。 1 9 4 5 00人に対する男性の数) $\begin{pmatrix}
1 \\
9 \\
2 \\
0
\end{pmatrix}$ 比 が 全国と大きく異なることも千歳の特徴 年の性比は80と大きく女性に偏った 年から なお、 0 戦争で多くの男性が死亡したことにより 国勢調査デー は長期漸減傾向にはあるものの、 タによると、 (国勢調査実施年では の 一 全国では つである。 性比 100付近 昭 (女性 大正 和 な 20

るが、 男性に偏っており、 年には海軍の解散や日本全体の男性減少の影響により性比は大きく低下す しかし、 25年になると再び大きく男性に偏り、 千歳では常に男性に偏っている。 千歳の特徴というよりも北海道の特徴と言えよう。 戦前は北海道全体でもやは 149に上る。 千歳の人口 22 n

の急増が始まった時期であり

-歳への流入人口の多くは男

160 140 120 性 Et. 80 千歳 ---ロ---北海道 60 40 S 15 S 25 S 35 S 45 S 55 H 2 H 12 H 22 図1-3

性比の推移 国勢調査に基づく。性比は女性100人に対する男性の人数。

増加により、 でも千歳の性比は103と男 n 熟と空港ターミナルビル 果の緩和とともに市街地の成 153になる。 男性へと偏り、 実などによる女性の就労先の 衛隊の駐屯が始まるとさらに 性であった。 平成27 の低 増 加 下が続いている。 に伴う自衛隊員数の効 2 0 1 5 性比は右肩下が 千歳への陸上自 その後は人口 30年の性比 年現在 の充

> 性に偏っており、 全国よりも8ポイント高

人口ピラミッド

次ベビーブーム期以降はさらにこの世代にもピークを持つ2峰型で推移 ベビーブーム期生まれの世代をピークとして推移し、 戦後日本の人口ピラミッドの形は昭和22 てきた。 人口ピラミッドとは男女別に年齢階級ごとの人口を表したグラフである また、 男女で概ね形が等しい。 1 9 4 7 年から27年の第1次 46年から49年の第2

て顕著であり、男女で全く異なった形を呈する しかし千歳の人口ピラミッドの形は全国と大きく異なる。 特に男性に

ある。 考えられよう。 移し、 が、千歳では目立ったピークとはなっていない 代にピークが移行した。 平成12年には一つ上の年齢階級 24歳の階級が常にピークであり、 ム世代階級 自衛隊員の数が人口ピラミッドに及ぼす効果が徐々に弱まってきたためと た。これは千歳の人口に占める自衛官の割合の際立った高さにその原因が 男性では35年から平成7 27年は40~ しかし55年頃からはこの階級の突出がそれほど顕著ではなくなり、 H 27 で 65 しかし、 44歳階級がピークとなっている。 69歳 その後はこの世代をピークとして時代とともに推 日本全体の人口ピラミッドでは第1次ベビーブー (1 9 9 5) の明瞭なピークが27年に至るまで見られ (25~29歳) 時代に伴うピークの推移が見られ 年までの長期間にわたって、 である第2次ベビーブーム世 千歳の人口増加に伴 なかっ 20

持 れ が見られた。 に突出してはいないが、 、よう。 つ形で推移している。 女性の人口ピラミッド 50年以降は全国 これも自衛隊員の家族が人口に多く占めていた効果と考えら の形も昭和45年頃までは全国と若干異なる。 の形に近くなり、 同 .期間の男性よりも1 両ベビーブーム世代にピークを 階級上の25 〜29歳にピーク 顕著

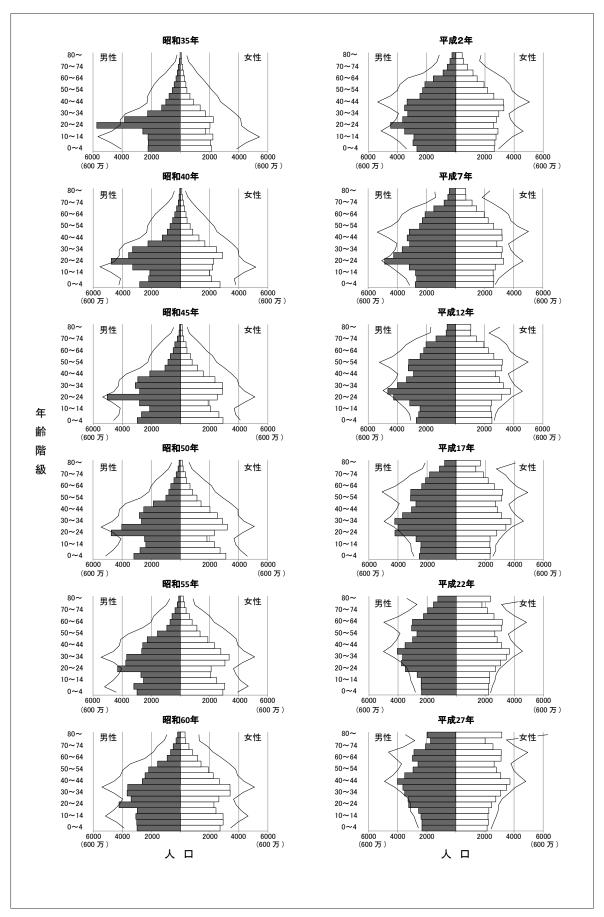


図1-4 千歳と日本全体の人口ピラミッド 千歳は棒で、日本全体は折れ線で示した。